インド　ブドウ生産が増加するも冷蔵施設が不十分

FreshPlaza　2024年2月5日

カルナータカ州のブドウ生産者は不十分な冷蔵施設に悩まされている

カルナータカ州では、ブドウの生産量が過去3年間増加傾向にある。しかし、同州には十分な冷蔵施設がないことが、生産者にとって大きな課題となっている。カルナータカ州ワイン委員会によると、同州産のブドウの約80%が干しブドウに加工されている。しかし、州内の貯蔵庫は年間干しブドウ生産量の約30%しか収容できないため、生産者らは(隣接する)マハラシュトラ州で代替の貯蔵庫を探すことを余儀なくされている。

ブドウの市場価格の予想外の下落は、輸送費や間接費と相まって、ブドウ生産者の財政的な負担となっている。カルナータカ州は、主にヴィジャヤプラ、バガルコット、ベラガビの各農村県とバンガロール都市圏の一部を中心に、マハラシュトラ州に次ぐ国内第2位のブドウ産地である。特に、ヴィジャヤプラ県は同州のブドウ総生産量の75%以上を占めており、国内有数の干しブドウ産地の一つである。

同州のブドウ栽培面積は、2019-20年度の2万9,197ヘクタールから2021-22年度には3万6,575ヘクタールに拡大した。同様に、生鮮ブドウの生産量は同期間に71万1千トンから78万8千トンに増加し、昨年度は98万トンに達した。通常、4kgの生鮮ブドウから1kgの干しブドウが得られ、気象条件や果実の品質により、この乾燥工程には12～18日かかる。

出典: deccanherald.com

トルコ　リンゴの出荷は持ち直し　ザクロは順調

FreshPlaza　2024年2月6日

トルコの青果物輸出業者アナフルーツ社のクブラ・ギュベン販売部長は、トルコ産リンゴの出荷は順調に始まったが、その後少し問題があったとして、「今季のリンゴ出荷シーズンは速い荷動きで始まったが、その後、紅海での物流面の問題により少し減速せざるを得なかった。しかし、出荷を止めることはなく、可能な場合には新しいルートを使用して毎週の出荷スケジュールを継続した」と述べた。

同部長は、生産者を教育することで栽培工程を改善するためにできることをしていると言い、「弊社のリンゴの主要品種は、レッドデリシャスとグラニースミスである。弊社は、果実の品質を改善し、貯蔵寿命を延ばすために必要な手段を講じている。シーズン前には、様々な地域の生産者を対象に、弊社の経験豊富な技術者チームとともにセミナーを開催している。そこでは、より健全なリンゴを生産するための手入れ、農薬使用及び正しい収穫時期について最新の知識を提供している。これらの取組みにより、弊社のリンゴは、長期間の輸送の後でも、目的地の市場で良いイメージを持ってもらっている」と語った。

ギュベン氏は、リンゴの次に、ザクロの出荷シーズンでも忙しかったが、これはうまく行った。同氏は、「弊社の主な目標は供給を切らさないことであり、そのため毎週、アジアを主とする弊社の取引先に素晴らしいリンゴを出荷している。ザクロも扱っているが、その出荷シーズンの始まりはかなり遅かった。しかし、その後、ヨーロッパでの荷動きはずっと良くなった。ザクロの出荷シーズンは現在終わりに近づいているが、良いシーズンであったと断言できる」と述べた。

同社はフルーツロジスティカ展示会に出展する。

執筆者：ニック・ピーターズ